

田畑忍 **憲法学者。敗戦直後、2度同志社大学学長になって再建に努め、戦前の体験から平和運動や憲法擁護に尽力した。**
 たばたしのぶ
 教科書疑獄・1902 = 滋賀県甲賀郡石部町の母の実家蓮乗寺で、同県栗太郡草津町に住み、地元の警察の書記を務める_クリスチャン田畑茂七の長男に生まれ、草津教会で幼児洗礼を受ける。

日露戦争終・1905 = 3歳：
 父茂七は奄美大島の漢学者の子に生れ、田畑家の養子となり、しばらく小学校の教師をした後、滋賀県に移住してきたと言ひ、生真面目で正義感が強く、立憲政治家の尾崎行雄らを尊敬、後に忍が語るところでは、"儒教仕込みのキリスト教徒"であった。蓮乗寺の宗派である浄土真宗の力が強く、キリスト教排撃の風潮がとりわけ強い土地で、讃美歌は歌うもクリスチャンにはならなかった母のもと、_詩吟は上手ながら讃美歌が歌えない父が大好きで、その影響を強く受けて育つ。

大逆事件判決1911 = **9歳**：
明治天皇没・1912 = 10歳：
 同志社の学生として伝道に来た高木庄太郎(後に法学部教授)に強引に勧められ、

民本主義・・・1916 = 14歳：
 同志社中学2年に編入学。山室軍平、賀川豊彦、内村鑑三などの説教に接し、さらに吉野作造からも影響を受けた。上級生になった時、数年前に知り合った_矢部喜好牧師の臆所教会で信仰告白したが、卒業すると、父や矢部牧師の希望に応え伝道師になるうと、同志社大学予科に入学した後、_矢部牧師が日露戦争に際して兵役拒否した人物と知って衝撃を受け、後の生き方に大きく関わることになる。

原敬首相暗殺1921 = 19歳：
 沼津での夏季伝道中に、肺炎カタルに罹り、2年間休学せざるを得なくなって、伝道は体質に合わないとして、正規の大学に昇格したばかりで、海老名弾正総長のもと、"同志社アカデミズム"最盛期のなか、高木のいる_法学部政治学科に転部、吉野作造の尽力で教員に採用された吉野の有力な門下生の多彩で有能な教員たちに巡り合い、とくに憲法・法理学担当の中島重に強く影響され、多元的国家論に感化されて学問をスタート、経済学担当の林要からは、独書講読の時間に、マルクスの「共産党宣言」の原文を教わり、暗記するほど読んだのはじめ、マルクス主義からも強い影響を受け、入学当初から弁論部に属し、転部後は、法学部学生審議会(自治会)の委員長も務めたが、盛んになる左翼学生運動には参加していない。

金融恐慌・・・1927 = 25歳：
世界恐慌・・・1929 = **27歳**：
満州事変・・・1931 = 29歳：
 国際連盟脱退1933 = 31歳：
 卒業。直ちに助手に採用され、今中次郎の後任として、政治学(史)を担当する予定であったが、
 敬愛する中島が辞任したため、
 助教授になると、教授会の指示で憲法も担当、京都帝大の立憲主義的憲法学者として著名な佐々木惣一「日本憲法要論」を下敷きにその学説を踏襲、国家や社会の見方は、佐々木や中島と大きく異なり、マルクス・レーニン主義を採用した苦心の講義用テキスト「帝国憲法逐条要義」を出版するや、

芥川直木賞始1935 = 33歳：
 勃発した天皇機関説事件の攻撃対象にされ、文部省訓令においても天皇機関説の講義は禁止、政府から発表された"国体明徴声明"以来、同志社の存立を揺るがすような事件が次々と発生、

二二六事件・1936 = 34歳：
 「憲法学の基礎理論」の序において、「帝国憲法逐条要義」を自主絶版にすると表明。{同志社論叢}が、同期の野村重臣助教授の右傾化した論文の掲載を拒否して、助教授が国体明徴から反論に出ると、前年総長になった湯浅八郎が解職して、右翼団体が介入、帝国議会でも問題になり、

日中戦争始・1937 = 35歳：
健保+総動員 1938 = **36歳**：
 湯浅総長の教育勅語誤読事件や、野村による個人攻撃で窮地に陥ったことから、内地研究員に異動、
 牧野虎次総長のもと復職し、「帝国憲法逐条要義」を、国体明徴と折り合いをつけべく修正した「帝国憲法条義」を出版。以後、同志社人として生き抜くことになる。

第二次大戦始1939 = 37歳：
日米開戦・・・1941 = 39歳：
敗戦・・・1945 = 43歳：
 新憲法公布・1946 = 44歳：
 「加藤弘之の国家思想」「法と政治」、
 「法・憲法及国家」「学問と大学」、
 *同志社学長すると、年来の願望であった無処罰主義を宣言し、戦前に脅かされ続けた大学の自治の確立、教員と学生を協力する学友とみなして、教授会自治と学生自治を導入するなど、大学の再建をめざすとともに、法学部についても、各分野の専任スタッフの充実を図り、自らは憲法学に専念し、新憲法九条の絶対的平和主義に出会って、その立場を鮮明に行く。

新憲法施行・1947 = **45歳**：
 極東裁判決・1948 = 46歳：
 三大事件・・・1949 = 47歳：
朝鮮戦争始・1950 = 48歳：
独立回復・・・1951 = 49歳：
 M-7事件・1952 = 50歳：
 「政治学の基本問題」「明治政治思想研究 第1冊」、
 「国家について」、
 「憲法学」「憲法学の基本問題」「憲法学序説」。この年発足した安倍能成らによる_平和問題談話会に参加、
朝鮮戦争始・1950 = 48歳：
 「国家と政治との必至的関聯」「政治学概論」、
独立回復・・・1951 = 49歳：
 以後6年、「憲法学原論」、
 M-7事件・1952 = 50歳：
 「戦争と平和の政治学」。{芸芸春秋}に寄稿した「無処罰主義の論理」で、この考えは、同志社出身の鈴木達治の講演から示唆を受けたと言う。_教員・職員・学生の一入一票制導入で、初めて学内選挙によって選ばれて、再度学長に就任し、湯浅八郎前総長による学内での政治活動禁止公示を撤回、私学への手厚い公的助成による私学公営論、国公立との完全平等主義を主張、

自衛隊発足・1954 = 52歳：
 「憲法改正論」「法と政治の実践」「法学概論(のち法学講義)」。_日米間に締結された相互防衛援助協定によって、自衛隊が登場するのを目的に、それが九条に違反すると認識、憲法改正が実は改悪であると、日本社会党系の144団体による憲法擁護国民連合が結成されると、

55年体制始・1955 = 53歳：
 国連加盟・・・1956 = **54歳**：
 美智子妃・・・1959 = 57歳：
安保闘争・・・1960 = 58歳：
 伊伊伊病始・1961 = 59歳：
 全国総合計画1962 = 60歳：
 「日本国憲法条義」、
 *自ら憲法研究所を設立して、京都の護憲運動をリード、ミニコミ誌{永世中立}を通じて、日米安保体制に代わる平和国家日本を確立すべく、到達したユニークな見解である"非武装永世中立"の実現を目指す。

TV宇宙中継始1963 = 61歳：
東京リボルヴ 1964 = 62歳：
 大学紛争始・1965 = **63歳**：
 「(人物叢書)児島惟謙」、
 「佐々木博士の憲法学」「憲法学講義」、
 「憲法と平和主義」。立命館大学総長末川博、鈴木安蔵、清水寺貫主大西良慶、羽仁説子らとともに、_憲法会議結成に参加、憲法改悪阻止京都各界連絡会議の代表幹事を引き受けるなど、"行動する知識人"として、京都を中心に憲法運動の中核的存在になるに至る

美濃部都知事1967 = 65歳：
大阪万博・・・1970 = 68歳：
ドミノ・・・1971 = 69歳：
日中国交回復1972 = 70歳：
石油ショック1973 = 71歳：
 角栄金脈辞任1974 = **72歳**：
 ・・・・1981 = 79歳：
中曽根内閣・1982 = 80歳：
ドイツニラント 1983 = **81歳**：
 「憲法と抵抗権 続・憲法重要問題の研究」、
 「現代大学論 大学改革の理念と方途」「政治学研究」、
 「議会と革命」、
 「日本の平和思想 明治・大正・昭和の平和思想家たち」。_定年退任。

・・・・1981 = 79歳：
 「非戦・永世中立論 憲法九条と防衛の問題」、
中曽根内閣・1982 = 80歳：
 「世界平和への大道 日本と日本国民の役割」、
ドイツニラント 1983 = **81歳**：
 _しばしば断食して自己の主張を訴えてきたが、

バブル崩壊・1992 = **90歳**：
 自社さ連立・1994 = 92歳：
 没した。
 「護国とは護憲のほかには道はなし。護憲に生きて護憲に死せん」の言葉を遺す。直言タイプの人物であり、大学長時代には学部長や中学・高校校長らともたびたび衝突したため、当時の大塚節治総長はその調停に苦慮した。記した著書のほか、共編著も多数ある。土井たか子元衆議院議長は、田畑の講演「平和主義と憲法九条」に感銘を受け、同志社大3年次に編入して指導を受けた。